

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全・安楽」の経営理念を玄関に掲示し、利用者から終の住処と考えてもらえるように「いつまでもお元気で楽しく暮らしていただけるホーム」を目指している。	管理者は職員に対し、理念の実現方法を直接指導している。1日1回は笑顔にいられるよう、アイコンタクトをとりながらゆっくり会話するなど、具体的なケアを率先して示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた折、地域住民の方にはこちらから挨拶するよう心掛けている。	近所の畑、広場まで散歩しながら近隣の方に話しかけている。管理者は地元住民であり、子ども会の神輿が事業所に来てくれるなど、昔から顔なじみの関係である。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ及びインフルエンザの感染防止のため対面会議開催は中止し、ご利用者の状況は面会時やメールで連絡している。書面会議で開催し議事内容を郵送報告、ご意見等があれば連絡頂くようお願いしている。	書面開催を実施。家族に議事内容を送付し、事業所への意見をもらえるようにコメントを載せている。6年度からは対面での運営推進会議を予定している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族からの要請を受け介護認定更新手続きの申請や主治医の意見書写しを受領している。又、生活保護受給家族についても相談している。包括支援センターや市民病院の生活相談員には空室状況を報告している。	障がい者の高齢者施設への移行や、身寄りの無い方などを積極的に受け入れている。市や包括支援センターに相談や報告を随時行っている。空き情報なども伝え、顔なじみの関係を作っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ホームの理念に基づき職員にも、しないケアの実践の徹底を図っている。必要であれば床マットセンサーも活用して、事故防止に努めている。玄関の施錠は夜間以外はしていない。	身体拘束防止についての資料を職員で読み研修を行っている。ベッド柵の使用について家族から同意を得ているが、委員会で話しあった議事録が確認できなかった。	指針に基づいた、身体拘束防止の会議を実施し、内容を議事録として残されるように期待したい。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が常駐、毎日のケア状況をチェックし、身体虐待のないことは勿論の事、言動での虐待が無いかも確認している。	虐待が起きないように、管理者は職員の体調に気を配っている。職員の話し言葉を気にかけて、その都度リラックスするように、気分を変えるように話しかけている。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのないご利用者2名が、それぞれ入所していた障害者施設、包括支援センターそれぞれから、身元保証・家族緊急駆け付け支援、終活支援を利用することになり、成年後見制度と違うが対応方法の知識が深まった。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は利用契約書及び重要事項説明書について説明を行い、疑問点がある場合や改定時には随時理解と承認を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から訴えや要請があれば、どのような対応が望ましいかを管理者が独りよがりにならず、介護職員と検討し実践している。運営会議書面開催でも、要望をお伺いするようにしている。	家族の面会の際に、管理者が家族に意見が無いかを確認している。要望があれば申し送り共有している。家族に電話で様子の報告を兼ねて、意見を確認している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からその都度連絡を受け対応し、申し送りノートに記入し情報を共有している。併せて意見や提案をもらい、必要があれば会議等話し合いの場を設け、周知徹底している。	移動介助が必要な利用者の使用するベッドを、手動ベッドから電動ベッドに変更し、職員の負担軽減を図った。家庭的な雰囲気であり、日常的に意見は管理者に伝えられ、その都度物品購入など対応されている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	勤務はシフト制を採用せず、休日希望を事前に確認のうえ勤務表を作成し満足を得ている。介護職員処遇改善支援補助金を有効活用し、時間給の改定と賞与も支給。高齢職員退職後の補充が難しく、土・日勤務の時間給アップも実施した。	職員の休日希望をほぼ達成する勤務表になっている。夜勤専従、時短勤務など職員の働く時間の希望も取り入れている。食事作り専門の職員を採用し、職員の得意なことが活かせるよう、業務内容に配慮している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しく義務化される「認知症介護基礎研修」については、資格がない職員にはオンライン研修を利用して受講。3名が修了証を取得した。	新入職員にはマンツーマンで管理者が指導している。職員と話しあい、必要な研修は勤務として参加してもらうように配慮している。介護福祉士取得のための研修費用は事業所が費用を助成している。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	岐阜県GH協議会及び日本認知症GH協会に加入しているが、Zoomでの研修が多く交流する機会に恵まれていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ場所、時間を共有することにより利用者個々の気持ちを理解し声かけを積極的に心掛け、洗濯物たたみ等をお願いしている。時々利用者からも「何かできる事はないか？」と申し出がある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定員6名の小規模事業所の強みを活かし、利用者のご家族が希望される生活が出来るよう、利用者本人の状態や性格も十分に把握し、気持ちを汲み取り対応している。	家庭的な雰囲気の中で、日常的に職員は会話の中から食べたいもの、したいことを直接確認している。聞き取った意向は、アセスメントシートに記入し職員で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族、ケアマネ、職員(ケアマネ資格取得者含む)と話し合い、主治医と連携を取りながら介護計画を作成している。介護度の進行に伴うケアプランの見直しもやっている。	介護職員とケアマネで協働し、前回のケアプランのモニタリングを実施。本人や家族に希望を確認し、職員会議で検討してケアプランを作成している。主治医からは受診時に意見を求めている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果について記録し、職員間で変化を共有しつつ、実践や介護計画の見直しに活かしている。申し送りノートにも記録し、確認のサインをすることで情報共有の徹底を図っている。	食事量、排便の有無は特に注意し、申し送りノートに記入して情報を共有している。申し送り時以外にも、職員間で気が付いたことはすぐに報告、申し送りノートで確認している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご家族と連絡を密に取り状況を説明、相談しながら柔軟な対応を行っている。エアマットや離床床マットセンサーも必要であればご家族に相談し導入している。	身寄りの無い方の受け入れを関係機関と連携し行っている。通院は看護師である管理者が送迎、同行している。歯科への通院も必要に応じて送迎、同行を支援している。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事にも極力参加できるよう努めているが、昨年は開催中止が多かった。また利用者の高齢化が進み、参加が困難となりつつある。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を最優先し、事業所とかかりつけ医とは十分な連携があり、適切な医療や指導を受けている。現在のご利用者5名の通院対応も全て事業所で対応している。	看護師である管理者が、定期通院、緊急受診に同行、送迎を行っている。訪問診療を利用することもできる。歯科受診も通院支援を実施している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された場合は介護サマリーを提供し、ご家族の承諾を得て管理者が(看護師兼務)病院に出向き、担当看護師、病院関係者等に容態を確認、生活相談員や主治医とも連携を取っている。	入院時、医療機関に看護師が同行している。入院中はこまめにお見舞いに出向き、利用者との信頼関係を維持している。医療行為が無く、医師が事業所に戻って生活できると判断した場合、受け入れしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については家族の意向を尊重し、主治医に判断を仰ぎ、延命治療の可否やケアについて検討している。家族から施設での看取りの希望があれば、身体的、精神的苦痛を少しでも緩和できる様ケアに努め、受け入れ対応している。	食欲の低下、身体状況の変化があった際には、早めに看護師より家族に報告し、看取り介護について説明を重ねている。管理者は職員にむけて、看取り時のコミュニケーションの取り方などを具体的に説明し、指導を行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、敷地内に居住する管理者(看護師)と介護職兼総務担当者への緊急連絡を徹底している。職員には利用者の状態を的確に報告、説明ができるよう指導している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、火災通報設備等の保守点検は毎年7月に受け、火災報知機・消火器の取扱い等の訓練を実施。水害時避難確保計画は作成済み、訓練は未実施であり訓練方法を検討中である。	避難訓練は定期的実施されている。災害時にどこに避難したらよいかはまだ決めかねており、地域での避難先を相談しながら決められている最中である。	今まで構築されたご近所関係を活かしながら学校、公民館、他の福祉施設など、実際に避難できる場所を検討され、避難訓練が実施されることを期待したい。

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格とプライバシーを尊重し、職員にもご利用者の尊厳を大切に、否定的や自尊心を傷つける言葉を使わないよう徹底している。特に排泄・入浴時にはプライバシーに特に注意している。	家庭的な雰囲気であることを意識し、あえて個人的な話を他の利用者の前で聞かないように管理者は配慮している。利用者ごとの個性を把握し、どうしたら気持ちよく過ごせるかを考え、対応している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話や行動などで判断し、思いや行動を汲み取り、自己決定できるように援助している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護職員は各ご利用者の生活や活動ペースを尊重して見守りしている。介助等が重複した場合には待たせる利用者に声かけを徹底している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者は4名が高齢化、お1人が車イス利用者のため、一緒に食事準備や片付けは難しい。メニューは要望を聞いてパン食も取り入れている。	利用者からのリクエストは、行事食として月2回程度実施している。家族に依頼し持参してもらったり、外食してもらったりしている。2週間に1回程度、おやつ作りを行っている。台拭き、野菜の下ごしらえなどを利用者と一緒に取り組んでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量を把握し提供、摂取量を記録している。退院後嚥下力が低下したご利用者にはお粥等別メニューで対応しているが、現在対象のご利用者はいない。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをして、その方に合わせた口腔ケアと入れ歯の洗浄及び消毒を実施している。	起床時と毎食後の4回、利用者ごとの状態にあわせた口腔ケアを実施している。義歯の調整や虫歯などは都度歯科に通院介助を行っている。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事前等時間を見て誘導したり、尿意、便意のある方はサインを見逃さずケアを行っている。リハビリパンツ着用のご利用者は、快適な状態を保てるよう定期的に確認している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は燃料費の高騰もあり、週2回曜日固定で午後実施。入浴順はご利用者の希望を受け入れて対応、職員がマンツーマンで入浴介助にあたり、楽しんで入浴できるように入浴剤、季節により菖蒲湯や柚子湯にして対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの日々の特徴や習慣を把握し、個々の生活パターンを尊重しながら、精神的に安らげるよう職員の声かけなどで工夫している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者兼看護師が服薬を管理し、内容を職員に説明している。また症状の変化には十分注意し、異常が認められる場合には管理者が連絡を受け、主治医に報告している。	介助方法は手順を定めている。内容に変更がある場合は、薬剤情報を貼り出し、職員が見て確認できるようになっている。飲みにくい方などは都度主治医に相談し、飲み方の工夫を行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みでぬり絵やパズルをしてもらっている。テレビはリビングか個室ではご利用者が選択し、視聴してもらっている。可能なご利用者には洗濯物畳みを依頼している。	パズル、色塗り等の趣味活動を自由にできるように支援している。部屋の掃除、洗濯干し、洗濯ものたたみなど、職員と一緒に家事に参加している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調に配慮しながら、可能な時は戸外に出かけ散歩するように支援している。 ご家族との定期的な外出や外食は、マスクを着用しお出かけしてもらっている。	近所のパン屋に買い物に出けている。通院の後に喫茶店に寄ることもある。家族と一緒に外出し、外食を楽しむ方もいる。季節ごとのお花を観にドライブも実施されている。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力、経済状況に応じ支援する方針であるが、家族の意向と利用者の認知度により、原則お金は所持していない。利用者が買物を希望される場合には同行し、家族の同意を得て実費請求で対応している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が在籍していた施設管理者から退職後も届く年賀状にはご利用者本人からも送るよう支援している。携帯電話を所持されていないご利用者には、必要であれば施設設置の電話を無償で利用可能としている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日勤者が出勤時は、施設共用空間の清掃から始めて清潔に保ち、不快感を感じないよう配慮している。天窓から自然光も差し込み季節の花や飾り物をする等して、ゆったりと過ごしていただけるよう努めている。	花をあちこちに飾り、季節感がある。新聞は定期購読されており、自由に読むことができる。天窓から自然光が入り、居間全体が明るい。清潔を心がけ、定期的に掃除や消毒を実施している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファを使ったり、利用者の習慣や能力により、自室と使い分けが出来るよう配慮している。新聞も好きな時に読めるよう用意している。車椅子ご利用者は、本人の思いを尊重し行動している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持参されたタンス、家族の写真等を飾り、居室のレイアウトは利用者や家族それぞれの好みにお任せしている。収納物は一目でわかるよう心掛け、居室にテレビの持ち込みは拒まず無償で視聴いただいている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手摺も設置し、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。一人ひとりの能力に応じてADLが維持出来るよう自走式車イスを使用したり、トイレ誘導時には手すりに掴まり立ちできるよう見守り支援している。		